

認定NPO法人
市民セクターよこはま

■ 事業計画 2015 ■

2015年度（2015年4月～2016年3月）

～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

【 2015年度事業計画書 目次 】

◆ 2015年度基本方針	1
◆ 組織運営	3
◆ 各事業の計画	
(支援センター部門)	
● 横浜市市民活動支援センター 管理運営業務	4
● にしく市民活動支援センター 管理運営業務	4
(地域支援部門)	
● よこはま食事サービス連絡会	4
● コミュニティ・スペースを拠点としたまちづくり事業	5
● よこはま地域づくり大学校	6
● まちかどケア事業	7
● 福祉サービス第三者評価事業、指定管理者第三者評価事業	7
● ヨコハマ市民まち普請事業	8
● コミュニティづくり支援事業	9

市民セクターよこはま 2015 年度基本方針

理事長 中野 しずよ

設立 15 周年、さまざまな「違い」を活動の糧に、継続を力に

1. 原点への思い

当団体は、満 15 周年となりました。設立のきっかけは、17 年前に開催された勉強会「市民セクター構築のための研究会」（横浜市社協）です。

その勉強会には、横浜市内の主に在宅福祉団体（ホームヘルプ、配食、地域サロン、送迎等）に所属する者方約 50 人が個人の立場で参加・参画していました。

そこで話し合われていたことは、さまざまな考えで地域づくりに取り組む「市民のセクター」「公共を担う主体の一つとしての行政セクター」「私たちの暮らしのニーズに欠かせない企業セクター」の方々など、さまざまな立場の人と「ともに考え合い、その特性を活かし合って、誰にとっても暮らしやすいまちをつくっていこう」というものでした。

参加しているそれぞれは、小エリアで活動している者ですが、全体を「俯瞰する視点」を持ち、「違いを認め」合い、私自身の「自分らしく」と、私以外のすべての人の「自分らしく」が、豊かに共存するまちづくりを目指そうと「誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」をキャッチフレーズに決めました。

それから 17 年、研究会で中心となったメンバーも齢を重ね、所属していた団体をバックアップする立場になっている方も増えてきましたが、それぞれに自分らしく地域で活躍しておられます。

そして、私たちが目指した原点、「ともに考え合い、その特性を活かし合って、誰にとっても暮らしやすいまちをつくらう」というビジョンは、今でも、とてつもなく大きなものですが、それぞれのセクターの努力の積み重ねの成果を実感しています。

2. 2015 年のトピック「介護保険改正に向けて」

17 年前の研究会は、横浜の特に地域で活動する女性たちの「生き方・暮らし方への思い」と「介護保険開始と NPO 法が制定されるというタイミング」が重なり、新しい時代が生まれる「胎動」を互いに感じ合っている感覚がありました。

そのような意味で、介護保険のしくみが大きく見直される中であって、また NPO 法人制度も一定の落ち着きを見せる中、今度はどのように変化を乗り切っていけば良いのか、「ともに考える」時が再びきました。

横浜市市民活動支援センターで行う計画の「よこはま市民パブリック★スクール」はこのことを「ともに考える」取り組みです。さまざまな主体の参画を得て進めていきます。

3. 世代を引き継いでいく準備

6年前に横浜市市民活動支援センターを、1年前からは、西区市民活動支援センターを受託し、その一方でよこはま地域づくり大学校という、市民の自主的なまちづくりの応援の核となる事業も養成開始から6年目を迎えています。

そのような中、特に20代～30代の若手常勤職員について、当法人の次世代を担う人材として、熱意とスキルの両面において充実してきています。これらの職員は、センター事業のみならず、法人自主事業も兼務で担っており、当法人の理念、議論を重ねて取り組む事業の進め方、市民の立場・目線を活かした提言的な協働のあり方への理解が深まってきました。

また、「活動現場に最先端の取り組み・気づきがある」こと、「問題の当事者こそ、その問題の専門家」だということ、「人の幸せに、支え・支えられる相互性が深くかかわっていること」なども、事業を通して実感しつつあります。

積み上げができてきたこれら職員が、継続的に働き続けていくには、さらなる処遇の改善、センター事業に依存しすぎない事業開発と財源の確保が重要となります。「市民まちづくり応援室」を中心に5年先を見据えた取り組みを進めたいと考えています。

最後になりましたが、設立から15年の永きにわたり、ずっと会員でいてくださっている個人・団体の方々が多くおられます。市民セクターよこはまは、わたしたちが立ち上げた団体、と「誇り」に思っていただけのように、役員・職員、ますます力を尽くしてまいります。

また、さまざまなきっかけで「会員」となってくださった方々、会員ではないけれど、市民セクターよこはまを応援してくださっている方々、ビジョンである「誰もが自分らしく暮らせるまち」を目指して、これからも「仲間」として、ともに考え、行動していきたいと願っています。

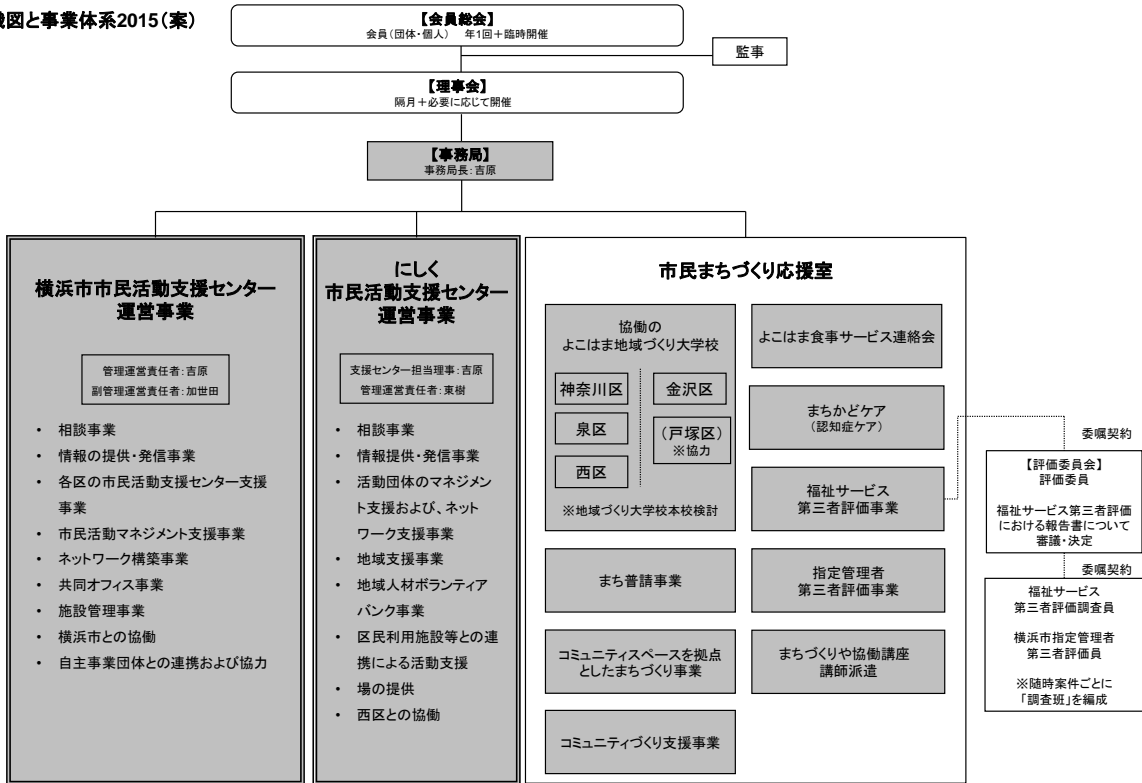
2015年、大きな希望を胸に、スタートをきります。

組織運営

地域づくり大学校は、新たに神奈川区が加わりました。

また、コミュニティづくり支援事業では、都筑区地域福祉保健計画の策定に向けた補助業務、磯子区洋光台周辺地域の市民活動支援業務を行います。

市民セクターよこはま
組織図と事業体系2015(案)



【 支援センター部門 】

■ 横浜市市民活動支援センター管理運営業務 (横浜市市民局市民活動支援課との協働事業)

別紙「2015(平成27)年度 横浜市市民活動支援センター事業計画書(案)」をご覧ください。

■ にしく市民活動支援センター管理運営業務

別紙「2015(平成27)年度 にしく市民活動支援センター事業計画書(案)」をご覧ください。

【 地域支援部門 】

■ よこはま食事サービス連絡会

目標

引き続き定例会メンバーの拡大を目指し、月1回行っている定例会の充実を図ります。その内2回程度は地域で食を通してまちづくりをしている現場を訪問し、実情の把握と課題解決に努めます。

今年度も2回の「食事サービスを考えるつどい」を開き、食事サービス団体の存在意義を高め、食事サービス団体同士の交流をはかり、課題解決のヒントを得られるような企画を実施し、団体のモチベーション向上を目指します。

実施すること

- 定例会
毎月、定例会を開催し、情報交換や「食事サービスを考えるつどい」の企画、必要に応じて調査研究を行ないます。
- 現場訪問
年に2回程度、地域で食を通じたまちづくりをしている団体の活動を視察し、成果や課題、目標などについて主催者から話を聞き、今後の活動に活かしていきます。
- 食事サービスを考えるつどい
市内で活動する食事サービス団体や支援機関に呼びかけ、団体スタッフのモチベーションアップに繋がるような勉強会・調理教室や来年度から新制度に変わる介護保険改正についての勉強会などと団体同士の情報交換や交流をする機会として「食事サービスを考えるつどい」を2回実施します。

■ コミュニティ・スペースを拠点としたまちづくり事業

今年度も引き続き、コミュニティ・スペースを拠点として「認知症になっても自分らしく暮らせるまちづくり」につながる事業について、団体同士のつながり、情報共有、意見交換の場をもちます。

目標

認知症に関する理解の普及や、集いの場づくりに向けて、各団体がそれぞれの地域の実情に合った取組みが進められるよう、団体同士が互いに学び合う機会をつくるとともに、他の地区の取組みについて情報収集・共有を図ります。

実施すること

● 認知症カフェ講座：2015年秋ごろ予定

認知症カフェ（認知症の本人とその家族が集える場）の開設に向けて、仕組みづくりや運営方法、活動について学び合うための講座を実施します。各地の認知症カフェの実践を参考にしながら、運営形態や活動内容に応じてどのような方法や工夫、課題があるのかを知ること、自分たちの地域の実情に即した取組みについて考える機会にします。

● 情報交換会：2016年3月予定

当事業の立ち上げ当初からのメンバーである団体の方々による情報交換会を開催し、各拠点における認知症ケアの取組みについて情報共有しながら、お互いの活動充実や課題の解決に向けて学び合います。



▲昨年度の情報交換会より

■ よこはま地域づくり大学校

(横浜市各区役所等との協働事業、主催事業)

自治会・町内会などで地域活動を行う実践者のための研修プログラムである本事業は、当法人・地域・区役所等との協働による「地域づくり大学校」として、今年度は4区（泉区、西区、神奈川区、金沢区）で開催、（戸塚区は協力）し、地域で活動する区民とそれを支える区役所職員がともに学び合うなど、住民の主体的な活動の推進を目指します。

目標

地域づくり大学校は「住んでいてよかった」と思える地域を自分たちの手で実現するための学び合いの場です。講師、事例紹介者、受講生とともに、地域の資源・人材を再発見し、様々な地域の課題を協力しながら解決していく「自治の力」を身に付けていきます。

※具体的には区ごとにねらいなどを設定していきます。

実施すること

まちづくりを実践的に学ぶ、実践者による講義・グループワーク・現地見学会を重視した内容です。特に自治会町内会の実践者を対象者の中心に据えています。

※具体的には区ごとに内容を検討していきます。

- ・ ホームページでの情報提供を行います（通年）。
- ・ OB・OG会の活動や受講生の自主活動を支援します。



■ まちかどケア事業

(横浜市健康福祉局・横浜市社会福祉協議会との協働事業)

目標

認知症の方とその家族がより安心して住み慣れた地域で暮らせるための支援の一環として、地域に根ざしたキャラバン・メイトやサポーターの活動モデルを紹介し、活動の広がりを応援します。

また、新オレンジプランにも明記された「認知症カフェ」など介護予防にも繋がるサロンの開設・運営などに認知症キャラバン・メイトやサポーターの皆さんが積極的に関わられるような情報提供や支援を行います。

実施すること

- **本人本位の認知症ケアマネジメント手法の普及、実践者のネットワークづくりおよびフォローアップ事業**
 - 実務者研修（認知症介護の専門職向け：3日間）を実施します。
特に入職後日が浅い方の現場での戸惑いや悩みの解決につながるよう、本人本位の意味を理解することに重点をおきます。「ひもときシート」「センター方式」というツールを知るとともに、チームでケアすることの意味や方法を理解し、本人本位のケアの実践に繋げるきっかけとなる研修です。
 - フォローアップ研修の実施、日常的なフォロー体制について検討します。
- **「認知症サポーターキャラバン」事業**
 - まちかどケア推進会議を4回開催します。
 - 認知症キャラバン・メイト養成研修を3回実施します。
 - 認知症キャラバン・メイトやサポーターの活動を応援できるような研修、あるいは認知症キャラバン・メイトのグループ連絡会等のモチベーションアップにつながる企画を検討・実施します。
 - 認知症サポーターガイドブックを発行し、活用を呼びかけます。
 - 認知症サポーター養成講座開催に対する相談・支援を行います。

■ 福祉サービス第三者評価事業、指定管理者第三者評価事業

目標

今年度も、当会の評価事業を行う上でのモットーである「利用者本位」「施設への理解」「市民の視点」を大切に進めます。

実施すること

福祉サービス第三者評価では、高齢・障がい分野のほか、保育分野にも取り組み（横浜市保育所の第三者評価受診義務化に伴う件数増加に対応するため）、年間5件程度を予定しています。

指定管理者第三者評価では、地区センターの実施を年間2件程度予定しています。

■ ヨコハマ市民まち普請事業

(横浜市都市整備局、横浜市指定 NPO 法人アクションポート横浜との協働事業)

ヨコハマ市民まち普請事業とは：

市民が主体的に取り組む地域まちづくりにおいて、ハード整備に上限 500 万円の助成を行う事業です。これまでにコミュニティカフェや公園の空間整備が年 3~5 件程度採択され、整備されてきました。当法人は 2008 年より協働事務局を担っています。

※詳細は、[ヨコハマ市民まち普請](#) を検索しウェブサイトをご覧ください。

目標

まち普請事業は今年度で 11 年目を迎え、これまでに多くの市民グループからの提案があり、整備が進められてきました。今後は、さらに潜在的な層に対して事業の周知を図り、活用してもらうことで、市民参加による地域課題の解決やまちづくりを支援していきます。

実施すること

協働事務局内で、これまでの役割分担に変更があり、今年度、当法人では以下の業務を行います。

(1) 2 回の公開コンテストの運営の補助

- ・ 1 次コンテスト：2015 年 7 月 4 日（土）
- ・ 2 次コンテスト：2016 年 1 月 31 日（日）

(2) 「ヨコハマ市民まち普請事業部会」の協働による事務局運営

(3) コンテストチラシ等配付業務

このほか、中間支援組織としての強みを活かして、整備済団体や提案団体への団体運営等に関する情報提供や、まち普請事業の周知に取り組んでいきます。

事業の周知については、横浜市市民活動支援センターを通じた市内の市民活動団体への発信のほか、地域づくり大学校などの事業を通じて市民の方々に広報していきます。また、区行政や支援機関の関係者などに対して事業の理解を広めることで、市民活動に取り組む団体・個人がまち普請事業を活用できる機会を増やしていきます。



▲昨年度の 1 次コンテスト（左）と 2 次コンテスト（右）の様子

■ コミュニティづくり支援事業

市民まちづくり応援室として取り組む事業です。市民主体の地域課題解決や、地域交流を促す活動支援を実施していきます。特に継続的に地域と関わりをもちながら、住民相互に認め合い、力を活かしあう場づくりを丁寧に進めることのできる事業に取り組めます。

① 都筑区地域福祉保健計画策定補助業務受託

第3期都筑区地域福祉保健計画策定に向け、区（全体）計画および地区別計画作成の支援、研修の企画・実施を行います。

実施すること

(1) 区（全体）計画作成補助

- ・ 都筑区地域福祉保健計画推進委員会（年3回開催予定）の運営補助
- ・ 区（全体）計画素案及び区（全体）計画作成に関する助言
- ・ 区（全体）計画素案及び区（全体）計画原稿作成

(2) 地区別計画作成補助

- ・ 地区別計画（全15地区）作成に関する助言
- ・ 地区別計画（全15地区）原稿作成
- ・ 地区別計画策定にあたり、重点的な支援が必要となる地区（5地区）に対する地域懇談会運営支援、助言や意見のまとめ

(3) 研修の企画・実施

- ・ 地域福祉保健計画を推進するにあたり、必要となる研修、発表会等の企画・実施
- ・

② 磯子区洋光台周辺地域 市民活動支援業務委託

JR 根岸線「洋光台」駅前に位置する洋光台中央団地内に UR が設置する、CC ラボ（Community Challenge Lab）を拠点として取り組まれるまちづくりの実践を横浜市建築局等とともに、支援します。

実施すること

(1) CC ラボの運営に関する意見交換会の企画・運営補助

市民活動団体の参画による CC ラボの運営に関するアドバイス等を行う意見交換会を年2回程度行います。

(2) ラウンドテーブル等における市民活動団体へのアドバイス

CC ラボの利用者が集い交流し、また学び合う場づくりの実施支援を年3回程度行います。